

今週の
みことば

「信仰による神の義」

(イザヤ書 41 章 5 節～16 節)

「恐れるな。わたしはあなたとともにいる。たじろぐな。わたしがあなたの神だから。わたしはあなたを強くし、あなたを助け、わたしの義の右の手で、あなたを守る。」(41:10)

(ローマ人への手紙 3 章 21 節～28 節)

「すべての人は、罪を犯したので、神からの栄誉を受けることができず、ただ、神の恵みにより、キリスト・イエスによる贖いのゆえに、価なしに義と認められるのです。」(3:23-24)

今日のメッセージ要旨

◎私たちが罪を許していただき、義しい者として受け入れられるのには律法を守ることにあるのでしょうか。その他にあるのでしょうか？

◎イザヤ書 40 章 1 節から 55 章 13 節までは「神の救いについての預言」で、41 章には「解放者なる神」について記されている。神様はアブラハムを通してイスラエルを選ばれた。これは、彼らにその価値があったからではなく、神様がそう望まれたからなのです(申命記 7:6-8,9:4-6)。世界に神様のことを伝えるために、神様はイスラエル人をお選らびになったのですが、彼らはその役割を果たせなかった。そのため、神様は彼らをさばき、捕囚に送られた。

すべての信者は神様に選ばれた者であり、神様のことを世界に伝える責任を共に担っているのです。神様は日を定めて信仰の厚い者たちを集められるのです。私たちは恐れることはありません。なぜなら、①神様は私たちとともにいらっしゃる。「私はあなたと共にいる」。②神様は私たちとの関係を確立された。「わたしはあなたの神」。③神様は私たちとその力、助け、罪に対する勝利の確信をお与えになる(10)、からです。

◎ローマ人への手紙 3 章には、①1-8 節、ユダヤ人の不真実と神の真実、②9-20 節、すべての人が罪の下にある、③21-31 節、神の義、が記されている。

神様の律法の役割が二つある。①律法は私たちの罪を示す。律法の故に、私たちは自分たちが無力な罪人であり、憐れみを求めてイエス・キリストのもとに行かなければならないことを知る。②律法に求められる道徳律は、私たちの行動を指導する役割を果たす。

「しかし、今は」(21)、私たちの罪深さと、神様の有罪の判決という悪い報せを語ってきたパウロは、神様の恩恵について驚くべき報せを語っています。人間の罪について神様の前に義とされるために、律法の行いは全く役に立たないのです。このことは「律法と預言者によってあかしされた」ものです。自分の罪の故に神の栄光を受けることが出来なくなった人間に対して、神様はご自分の方法を用いて救いの御業を計画し、成就されたのです。それは、神の御子イエス・キリストご自身にすべての人の罪の責任を負わせ、イエス・キリストを罪人として、十字架の上で徹底的にさばかれたのです。そのイエス・キリストご自身が十字架上で「父よ。彼らをお許ください。彼らは何をしているのかわからないのです」とお祈りくださり、十字架の死と復活をもって私たちの罪のための贖いの御業を成就してくださったのです。その「イエス様をキリスト(救い主)と信じる」ことによって、罪を許され、神様の前に義しい者として受け入れられるのです。

◎新聖歌 230 番に「十字架のもとぞ いと安けき 神の義と愛の会えるところ」と歌われています。神様が行われた救いの御業は人知を超えた出来事です。その御業はすべての人のためでもあり、またわたしのための御業でもあるのです。感謝して受け入れましょう。